

# 集 特防 災

## 初期消火の知識と消火器の操作

火災を未然に防ぐことができれば、それに越したことはありません。

しかしながら、思わぬ原因により火災が発生する場合も考えられます。もしもの時、初期消火の知識を身につけておくことで、被害を最小限に食い止めることができるかもしれません。皆さんも、もう一度確認しておいてください。

### 初期消火について

木造家屋の火災は、平均すると全焼にいたるまで20分程度です。火災発生後、どれくらいの時期まで初期消火が可能かを見極めるのもまた難しいことです。

一般に初期消火が可能なのは、天井に火がまわるまでといわれています。

天井に火がまわるまでが初期消火の限界と考え、あとは現場に到着する消防隊にまかせてください。

また、大声で周りの人に火災であることを知らせましょう。一人での消火活動を考えず、みんなで協力することが大切です。

### 時間で見る火災の成長

#### 初期消火の時期



出火してから2分前後で壁板、ふすま、障子などの立ち上がり面に燃え移ります。

#### 消防隊による消火活動



天井に燃え移るまでに約2分〜3分。出火の場所や状態によつてはもっと早いです。

#### 消防隊による活動



約5分後には、隣室各部屋へ延焼。火は2階の天井へ(約7分)。全焼まで約20分です。

#### 消火器の種類

消火器には、強化液消火器、粉末消火器、機械泡消火器、二

酸化炭素消火器などの種類がありますが、強化液・粉末・機械泡消火器が一般的です。消火器は火災に適応したものを選ぶことが大切で、消火器には適応する火災の種類を示すラベルが貼つてあります。通常家庭に貼れるのは粉末消火器で、普通火災・油火災・電気火災のどれにも対応するため、白・黄・青の3つのラベルが表示されています。

▼白 普通火災(木材、紙、布などが燃える火災)  
▼黄 油火災(灯油、ガソリンなどが燃える火災)  
▼青 電気火災(電気設備や器具などが燃える火災)

おちついて、できるだけ火に近づいて、燃えているものに対して直接噴射し、ほうきで掃くようにノズルを動かすのがコツです。完全に火が消えるまで気をぬかないように!

### 消火器の操作について

①あわてずに消火器上部の安全ピンを抜き燃えている物に近づく。

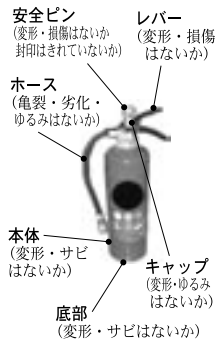
(およそ2m〜5m)

②ホースを引き抜き、ノズルを火元に向ける。

③レバーを強くにぎり、炎・煙に惑わされず燃えている物に直接放射する。



### 消火器の日常点検



### 消火器の処分

容器に傷や錆のある古くなった消火器は破裂するおそれがあり大変危険です。不法に投棄したり、消火薬剤を放出しないでください。もちろん消火訓練などでも使用してはいけません。消火器を処分する場合は必ず専門の業者に依頼しましょう。

## 火災現場などの災害弱者を守るため消防団長らが手話を学ぶ

小松島市消防団幹部秋季研修会が10月9日、市保健センターで消防団幹部と消防本部の職員ら計54名を対象に開催されました。『災害現場における手話講習』をテーマにかかげ、災害弱者に対する取り組みのひとつとして、小松島市身体障害者連合会から講師を招き「逃げる」「遅れる」「家族」「何人」「ケガ」など、手話の単語を習いました。

